

# 少人数数学級をテーマに 福智町教職員研修会



→町内8校から教員など約180人が参加した研修会。市場小の木月有里先生と赤池中の山中祥道先生が映像やグラフを使って取り組みを発表。

**「私**は教師の加配措置があるかないかでクラス状況が随分違うことを経験しています。この少人数数学級の取り組みは、私の実感に基づいた施策です。先生方に發揮していただいた力を子どもたちに十分伝えられる環境づくりが行政の役目だと信じています。」

浦田町長が「子どもたちに目が行き届く分、実態や背景を把握しやすく、改善や向上につながる」「学力を身につけることで子どもの可能性や幸福の度合いが広がる」「特徴ある魅力あるまちづくりが子育て世代の定住を生み、自主財源の確保につながる」などの施策目標を列挙し、福智町教職員研修会は幕を閉じました。

1月8日に地域交流センターで開かれたこの会では、まず市場小の木月有里先生が算数学習指導を中心に学力向上ブ



→福智町独自の取り組みである少人数数学級の趣旨を説明した浦田一町長。



↑和田中の学力向上を中心に講演した藤原和博氏



← 宣言をした筑豊地区推進会長の森本精造、筑豊市教育長福岡県教委の森山良一、教育長



## 教育力向上県民運動を宣言

福智町で12月14日に県教委主催の教育力向上福岡県民フォーラムが開催されました。筑豊地区の厳しい学力調査結果を踏まえ、教育力向上県民運動の宣言がなされ、「夜スベ校長」で著名な前・杉並区和田中校長の藤原和博氏が講演。成果をあげた教育力向上の実践法に理解を深めました。

ランの実践について授業風景を通して解説。続いて赤池中の山中祥道先生が習熟度別分割授業や形成的評価、学ばせづくりのプロジェクトなど、生徒の学力と学校の魅力を高めるために全職員が取り組んでいる内容を発表しました。

桑野隆泰教育長は「町財政が逼迫している中で少人数学級を導入した目的や意義についても一度先生方に自覚を促したい」という今回の趣旨を説明。「全国学力調査で福岡県は麻生知事が危機感を持つほど悪い。計15人の町単費の講師を採用し約2年半が経過したが、成果という点で再度日常の実践を振り返ってほしい」と窮状を訴えました。筑豊地区で唯一となるこの全学級30人以下の取り組みを福智町の財産として、今後実績を表すべく取り組むことを確認しました。



→少人数数学級の目に見える成果と県内の状況を訴えかけた桑野隆泰教育長。

## 愉芽育む授業

### 市場小で全国算数授業研究会

算数の愉しさを追求し、子どもたちに算数を愉しむ芽(愉芽)を育むことをテーマにした「全国算数授業研究会主催大会」が12月26日に市場小学校で開かれました。より質の高い授業を目指すおよそ500人の先生が全国から集まり、日本各地の先生16人による公開授業が市場小の全クラスで行われました。公開授業をふり返る協議会や教材開発をはじめとするワークショップ、算数的表現力についての講演など、全国トップレベルの実践研究が展開されました。



↑算数を愉しむ時間を共有した6年1組の千々岩芳朗先生による公開授業。

←筑波大学付属小の田中博史先生が講演。演題は「算数を愉しむ芽を拡げる表現力」。

→筑波大学付属小の細水保宏先生による公開授業。体育館で多くの視線を浴びながら、子どもたちが活発に発表。

